こども
子供のインターネットバイブル

あんない
案内いたします

ひと
なみだの人、
エレミヤ

文：Edward Hughes

絵：Jonathan Hay; Alastair Paterson

改作者：Mary-Anne S.

翻訳者：Yuko Kajiki

監修者：Dan Ellrick

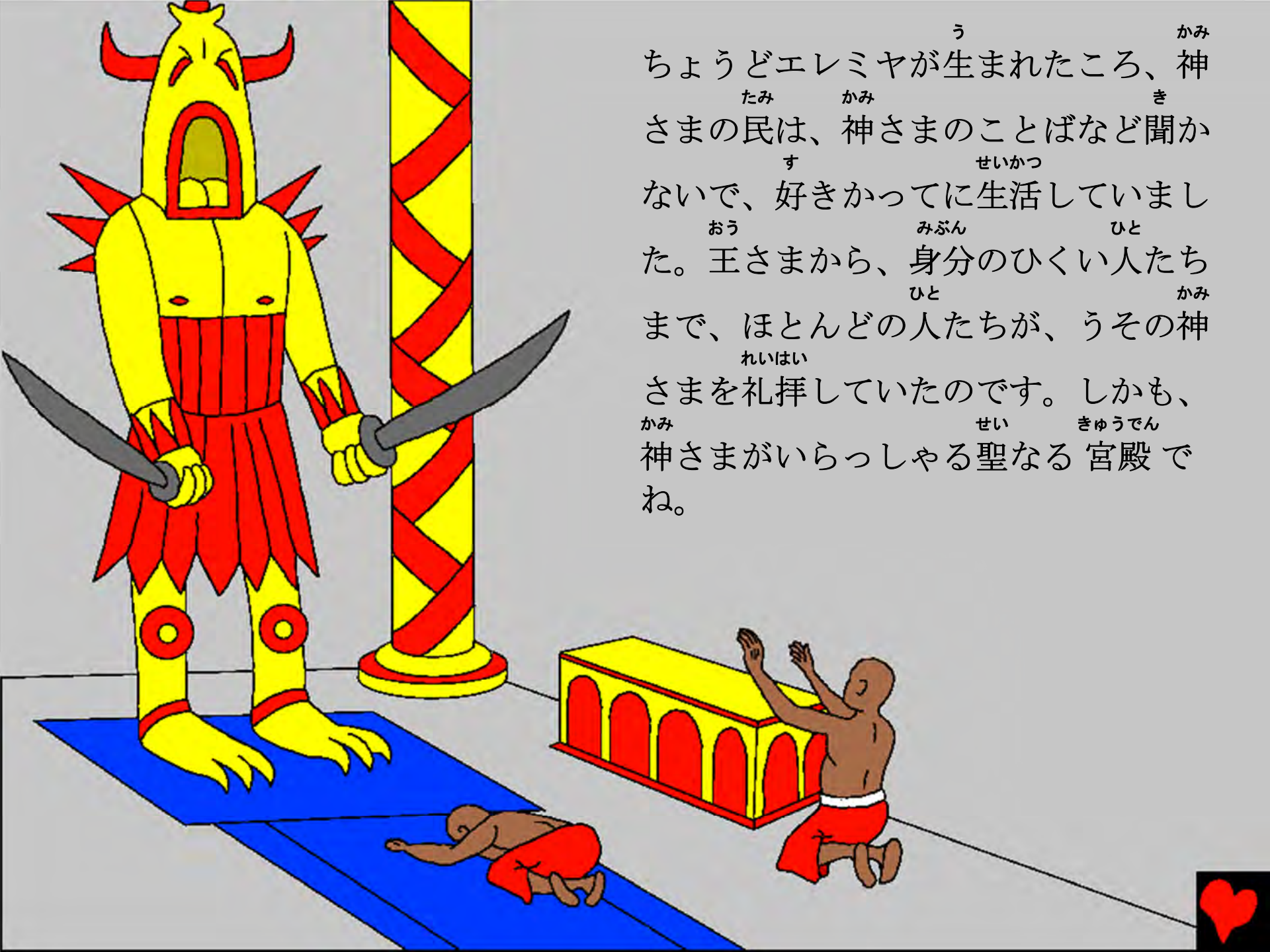
出版社：Bible for Children

www.M1914.org

©2022 Bible for Children, Inc.

許可：　他人に売らない限り　このお話のコピー、又はプリントは、許可されています。

エレミヤは、ユダの王国で生まれました。かれの家ぞくはみんな、心から神さまを信じて生きていました。お父さんヒルキヤは、祭司です。かれの家ぞくは、エルサレムからそんなに遠くない町アナソスというところに、住んでいました。エレミヤのお父さんとお母さんはね、かれもお父さんのように、きっと祭司になるだろうと思っていたのです。ところが、神さまはエレミヤにもっとほかのことを、計画されていたのですよ。



ちょうどエレミヤが生まれたころ、神さまの民は、神さまのことばなど聞かないで、好きかってに生活していました。王さまから、身分のひくい人たちまで、ほとんどの人たちが、うその神さまを礼拝していたのです。しかも、神さまがいらっしゃる聖なる 宮殿 でね。

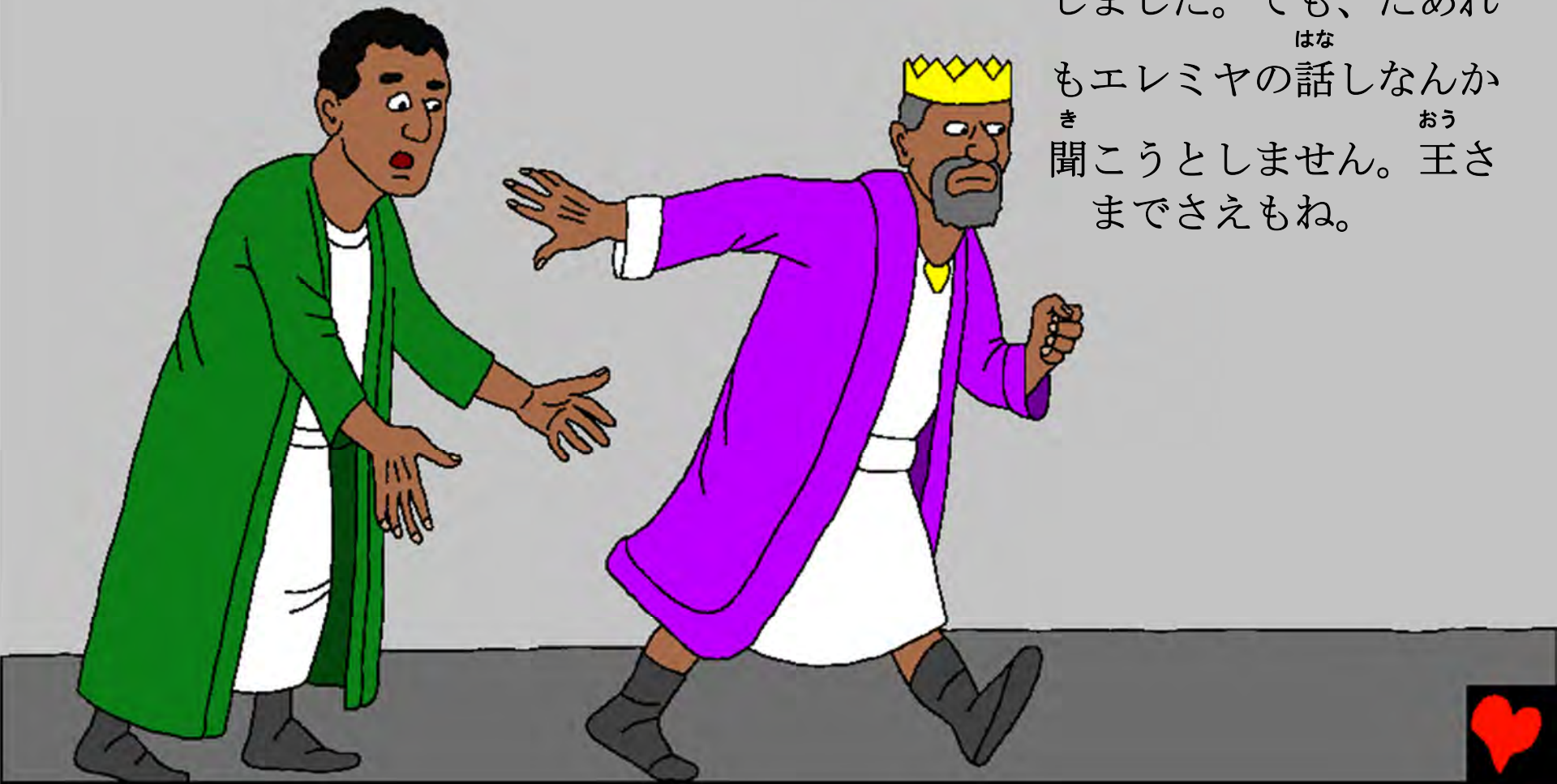
エレミヤが、まだわか者だったころ、神さまはこのように話されました。「エレミヤよ、わたしは、おまえのことを生まれる前から知っているんだよ。」そして、また言われました。「そのときから、わたしはおまえのために、ちゃんと計画をたてているんだ。わたしのことを、人々に告げるようにね。」

エレミヤは、神さまからの声を聞いてびっくり！とてもこわかったようです。

「ああ、主なる神さま！」エレミヤは、叫びました。「わたしには、人に話すことなんかできません。神さま、わたしはまだ子どもなのです。」でも、じつは、エレミヤはもう子どもではありません。そのとき、もうすでに２０さいでしたからね。それでもエレミヤは、神さまのことを人々に話すなんてとんでもないと思いました。どうしてって、かれのまわりの人々は、ほんとうに悪い人たちで、ひどいことばかりしているのですから。

「エレミヤ、おそれるな！」神さまは、きっぱりとこう言われました。「さあ、エレミヤよ、わたしが行きなさいというところは、どこでも行くのだ！
わたしが、話しなさいということは、なんでも言うのだ！わたしが、いつもいっしょにいるのだから。わたしが、おまえをつかわそう。」あれっ、
それから神さまは、エレミヤに何かとくべつなことをなさいましたよ。そう、
神さまはエレミヤの口びるに、そっとふれられたのです。

神さまは、エレミヤに力、ゆう気、そして知恵を与えられました。すると、どうでしょう。エレミヤはたくさんの人のまえで、大きな声で話しはじめたではありませんか。神さまが、愛していらっしゃること、そして助けたいを思っていらっしゃることを　みんなに思い出してもらおうとして、いっしょうけんめい話しました。でも、だあれもエレミヤの話しなんか聞こうとしません。王さまでさえもね。



神さまにつかえる祭司でさえ、おこってこう言いました。「エレミヤ、もうやめなさい、神さまのことを話すのは。」また、にせのよげん者たちも言いました。「エレミヤの言っていることは、うそばかり。」

エレミヤは、１００年ぐらいまえにあったできごとを、人々に思い出させようとしましたよ。それは、イスラエルの北の王国が、「神さまなんか、いらないよ。」と捨ててしまったときのことです。そのとき、かれらのてきアッシリア軍の人々が、イスラエルの王国に攻めて来て、そこに住んでいた人々はみんな、とおいとおい地に追いやられてしまったのです。

今また、イスラエルの南の王国、ユダの人々が「神さまなんか、いらないよ。」と言って捨ててしまったのです。てきの軍たいが、もうすでにこちらに向かって来ているではありませんか。神さまは、神さまの民が、他の民にやっつけられ、とおいとおい地に追い出されてしまってもよいと思っていらっしゃるのでしょうか。

人々は、心からぐう像を信じていました。みなさん、ぐう像は、てきの軍たいから人々を、助けることができると思いますか。いいえ！決してできません。神さまだけが、助けることができるのですね。でも、ぐう像を信じる人々は、神さまのことを話すエレミヤに、すっかりはらをたてました。じつはね、みんなは「エレミヤをころしてしまおう！」って、計画していたのですよ。エレミヤは、だいじょうぶでしょうか？

もちろんです。神さまが、しもべエレミヤをしっかりと守ってくださっていますからね。

とうとう神さまは、エレミヤがたいへんショックをうけるようなことを、言われました。「エレミヤ、もうイスラエルの人々のために、祈らなくてよい。かれらが、どうか助けてくださいと、わたしに泣いてたのんだとしても、いまのところ聞くつもりはない。」

そこでエレミヤは、王さまに知らせました。「あなたの国は、バビロンの軍とのたたかいに、負けてしまうだろう。」とね。それを聞いた王さま、すっかり怒りました。「エレミヤを、すぐろうやに、ぶちこんでしまえ！」でも、ろうやの中でもエレミヤは、みんなに神さまのことを話しつづけ、神さまを心から信じつづけました。

ろうやから出たあと、エレミヤは、また王さまや人々に神さまのお話しをしました。「みんな、神さまのもとにもどるんだ！ 心から信じるんだ！」って。怒った王さま、こんどはエレミヤを、どろだらけの深い地下のろうやに放りこんでしまいました。

けれどもその後、神さまは、王さまの心を変えられたのです。神さまを信じるようになった王さまは、みんなにわからないように、そっとエレミヤをろうやから救い出しました。そして、エレミヤにたずねましたよ。「神さまは、王であるわたしに、何をするように言われているのか。」エレミヤの答えはこうでした。「とらわれ人となるのだ。そうすれば、あなたは生きてゆけるだろうと神さまは言われている。」

バビロンの軍たいは、エルサレムとユダのほとんどの地を、自分たちの物としました。かれらは、かべやたて物すべてをこわし、何もかも焼きつくしてしまったのです。神さまは、言われました。「わたしの民は、７０年のあいだ、とらわれ人となるだろう。そしてその後、わたしは、かれらをやくそくの地へつれもどすことにしよう。」

ひと
なみだの人、エレミヤ

かみ　み　せいしょ　しる
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

しょ
エレミヤ書

み　ひら　ひかり　あた
あなたの御ことばが開かれると、光 が与えられます。

しへん
詩篇 119:130

おわり

この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしってほしいと、
思っていらっしゃるのです。

神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、しっていらっしゃいます。それを、
神さまは、罪とよばれています。その罪のむくいは、死です。
けれども、神さまは、あなたをとても愛していらっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、この世に送ってくださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたのです。けれどもそれから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさまを信じ、ゆるしてくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イエスさまは、今、あなたの所へ来て、あなたのこころの中に住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさまといっしょに生きることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言ってください。
愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡くなってくださいました。そして、よみがえって、いま生きていらっしゃいます。どうか、私のこころの中に来て、罪をゆるしてください。それで、私は今、あたらしい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにいることができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子として生きることができますよう、たすけてください。アーメン

まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書３：１６